

教育研究所運営委員会が終わりました!

2月15日(水)、第2回運営委員会を開催しました。13名の運営委員の皆さんにご出席いただき、今年度の運営や次年度の業務について、協議いただきました。

初めに、参加者確認に続き、稚内市教育委員会 細川早苗教育部長より、「日頃より教育研究所の運営にご協力いただいていることに感謝申し上げます。また、年間を通して様々な研修の企画や研究内容などをお便りや所報で市内の先生方に還元していただいた研究所の運営にお礼を申し上げます。全国学力学習状況調査の結果では小学校は全国・全道との差が縮まってきている。中学校については課題がみられるところがある。これは児童生徒が身につけるべき学力の特定の一部であるが、引き続き子ども達の学力向上に、皆様のお力をお借りしたい。」と、挨拶がありました。

次に、運営委員会副委員長である松本ちひろ教頭(教頭会代表)を議長に選出し、業務報告、協議と議事を進行していただきました。

業務報告と協議の概要は次の通りです。

1. 業務報告の概要

① 所員会議について

所員の負担軽減を図り、皆で学びながら研究を進められるよう、会議の回数、研究の進め方、所報発行について見直しを図った。回数は、これまでの年16回から、学芸会・文化祭期間の1回を減らした15回で計画。実際は研究所の都合で1回中止、荒天のため1回中止になったため13回目で今年度の活動を終える予定。

また、所報発行を2回から1回に減らし、資料や情報を随時提供するという形に変え、1年間かけて研究を行った。会議の開催も対面を基本とし、コロナ禍の状況で、オンラインやオンラインと対面のハイブリットなど柔軟に対応した。結果的に13回になった所員会議で研究を行い、成果物をまとめられたのも、1年通した研究にシフトしたからである。所員アンケートでも、概ねこのような進め方や回数でよいという意見を頂いた。

教育研究所の運営目標や運営方針実現のために所員には大きな役割を果たしていただいている。少しでも負担軽減が図られ、実り多い研究ができるように、今年度の実績をベースに次年度の計画を立てていきたい。

② 研究について

今年度は、運営目標1の学校の教育実践に役立つ具体的資料の作成や提供という観点で、新しくなった小学校社会科副読本に準拠した単元テストの作成と外国語活動・英語教育について、2グループに分かれて研究を行ってきた。

社会科グループで作成したテストは、既に各小学校に紙とデータ(USB)で配布した。

英語グループは、小学校で活用できるようクラスルームイングリッシュについてミニ所報にまとめた。さらに、潮見小の永吉所員と、東中の今西所員に協力していただき、ALTとの授業動画も作成した。

今後、稚内の先生方対象の限定公開という形で公開する予定。

③ 研修について

特別支援教育支援員を対象とした研修会を中止。参加集約を終えたところで、急速に感染が広がったため延期。開催時期を遅らせての実施を検討したが、3学期に入るため、今年度の実施は見送った。

次年度の研修は、運営委員・所員アンケートの要望も参考に企画したい。



④ 広報について

ホームページの更新が滞った。お便りの掲載のみになった。

⑤ 事務・所管連携事業について

第1回運営委員会で図書協力員未配置校への派遣要望が出された。教育委員会との協議や協力員が配置されている学校と調整を行い、未配置小学校4校に5回ずつ派遣を行った。

令和5年度は今年度派遣できなかった学校も含めて派遣する方向で検討することになっている。



2. 協議の概要

- * 所員会議はこれまで以上にオンラインでの実施を取り入れていただけると有難い。
- 対面の方が良い場合、オンラインでいい場合と、会議の内容により取り入れていきたい。

- * 中学校を対象とした研修も企画していただけると有難い。特に、評価や評定、評価システムについて他の学校と交流したり、研修を深めたりしたい。市内共通の評価システムがあると有難い。
- 中学校の先生を対象とした研修・研究も考えたい。各校がどのように学習評価について取り組んでいるか実態を把握し、検討したい。



- * 宗谷教育研修センターや教育研究所で、是非、授業動画を見られるようにしていただきたい。また、オンデマンド研修について検討していただきたい。

- 宗谷教育研修センターは組織体制や次年度の研修について関係機関と協議を行っている。様々な研修が企画されることと思う。希望はセンターにも伝える。教育研究所においてもそのような方向で取り組みたい。まずは、東京書籍担当者から、小学校英語のデジタル教科書の使い勝手が良くなるように更新されると聞いている。新年度の担任や英語担当者を対象に、東京書籍の担当者を講師にしたデジタル教科書の説明会を企画したい。当日参加できない人も視聴できるようにオンデマンド配信に取り組みたい。

- * 図書協力員を派遣していただいたが、図書室の環境整備が進んだ。先生方だけでは限界があるので大変ありがたかった。他の学校も同様に思っていると思う。次年度以降も派遣をお願いしたい。

- 図書協力員には、図書室の整備や読書活動の推進、台帳整備など学校の要望に応じて取り組んでいただいた。今年度は年度途中からの取組のため、各校へ5回の派遣で研究所が送迎を行った。次年度については、今後検討がされるものと思われる。

終わりに、船木所長より、謝辞に続いて「教育免許更新制に関する規定が廃止になり、文科省による新しい研修制度が導入される。これに伴い、先生方一人一人の強みを伸ばし、新たな専門性を身に付けることができるよう「個別最適な学び」や「現場の経験」を重視した学びを進めることが求められる。研究所においても、学校現場のニーズに応えられるもの、教職員の資質向上に寄与できる研修会や講座などを実施していきたい。また、先生方にとっての個別最適な学びを提供するためには、多様な研修内容、また回数や方法を工夫する必要がある。対面やハイブリット開催に加え、オンデマンド配信も検討したいと思っている。来年度以降も研究所の運営や事業の推進にお力添えいただきたい。」と、挨拶があり、運営委員会を閉じた。

運営委員の皆様には、教育研究所の運営に係り貴重なご意見・ご示唆を賜りました。紙面を借りてお礼申し上げます。

